

1985年発行

日立第5団10周年記念誌より

日立第5団

10年のあゆみ

座談会



座談会出席者

団委員長 (Aa)、副団委員長 (Ys)、
団委員 (Nn)、団委員 (Ot)、団委員 (Sa)、
団委員 (Sy)、団委員 (Th)、団委員 (Km)
団委員 (Yy)、
CS 隊隊長 (Yma)、BS 隊隊長 (Sy)、
SS 隊隊長 (Sk)、RS 隊隊長 (Ky)、
CS 隊副長 (Wm)、

編集委員

(司会) 副団委員長 (Ok)、
団委員 (Is)、団委員 (Ymo)、団委員 (Oh)

【司会】 本日は、大変お忙しいなかをお集まりいただきましてありがとうございます。

今日の話し合いは、発団から5年ぐらいの黎明期、日立6、7団分封から今日までの発展期と、大きくふたつに話のポイントをおいてみました。ご忌憚のない話し合いをお願いします。

では早速、副団委員長 Ys さんに「発団当時のご苦勞」をお伺いします。



【副団委員長 Ys】 そうですね、ひとことで言うと、無我夢中だったといえますね。資材もない、財政面でも金はない、スカウティングもよく解らない、とないないづくしでした。ただ言えることは、どこの団にも負けない親とリーダーの結束力と、「やるんだ」という意気込みみたいなものは素晴らしかったですね。

【団委員 Nn】 今のようにハウスがあるわけではなかったので、団委員長宅をお借りして毎晩遅くまで、熱心な話し合いをしました。昭和50年3月26日、プラザ3階で発団のための父兄会を開きました。3月30日に、日立1団の上進、入隊式を午前中に行い、午後日立5団の発団式を行いました。とにかく、今の7団の地域までですから広がったので、集まってくるリーダーさんなんか大変でした。

無我夢中だった発団当時

【司会】 団委員 Th さんにお伺いします。前半5年ぐらいの思い出をひとつ。

【団委員 Th】 息子は「しか」から入りました。発団1周年記念式典と、そのパレードをよく覚えています。デンマザーの自信あり気に大またで歩いている姿、張り切っている姿がつい先日のように思います。私は駐車場の係をやりました。皆さんに見とれていた、やみくもについて行ったという感じです。スカウティングフォアボーイズをいま読み返してみると、今迄解らなかつたことが全て書いてあります。夢中でした。皆さんにぶらさがりながら、手さぐりの前半でした。

【司会】 BS 隊長 Sy さん10年という長い間、一口に10年といっても一昔になります。現代流なら、一昔は5年ですから二昔になるかも知れませんが、お骨折りをいただきました。スカウト達の気質の変化や訓練内容の変化など、お気付きのことがあればお願いします。

制服はおさがり

【BS 隊長 Sy】 10年前の気質と比較して、今も当時も子供は変わっていないと思います。変わっているのは大人の方だと思います。子供の本質は変わっていません。ただ当時の方が、運営上は質素でした。制服などは先輩が破れたところを繕って、後輩におさがりとしてやっていましたね。

【司会】 訓練の方はいかがですか。

【BS 隊長 Sy】 5団ボーイ隊スカウト活動の手本は、里美



でやった「第1回日立地区合同野営」といいて良いと思います。どういう形式でやったか、どこにテントを張ったか、誰と泊まったか、鳥の巣箱をどこに掛けたかなど、ひとつひとつ今でもあざやかに覚えています。

【司会】 団委員長おまたせしました（笑い）。どうぞ。

【団委員長】 一番の思い出は、生みの苦しみ、誕生させる苦しみですね。5団として継続してやっていけるかどうか自信がありませんでした。夜を徹した「大激論」でたどりついたことは、とにかく頑張っていこうということでした。

【司会】 とくに印象に残っていることなど。

【団委員長】 団委員 Nn さんと登録で県連（下館事務所）に行った時です。当時事務局長だった相馬先生に率直に聞きました。たくさんある団の中で衰退する団があるが、それはどういうことが理由なのかと。その答えは、「リーダー養成を誤ったからだ」でした。よし、それなら、リーダー養成だけはしっかりやろうという気持になったことですね。その他、5団が今日こうして10年を迎えられるのは、「何もなかった」ことです。不思議に思われるかも知れませんが、何も無かったので、ひとつひとつ工夫したことが良かったと思います。お金がなければ、別な方法を考えるというふうに。これが原動力になりました。

【司会】 その他には？

【団委員長】 50年に行いました本山でのキャンプです。撤営の最終日は大あらしでどうしようもない悪天候でした。撤営とはこうするんだということで、当初の計画を全然変更しないでやってしまいました。ここで、5団の本当の意味での結束が固められたように思いました。同時に「きびしさの中にこそ教育の原点」があるのではないかとも思いました。

【司会】 団委員 Yy さん、どうぞ。

【団委員 Yy】 カブ隊としては、46年、47年頃からリーダーをさせていただいたので、結束してやってゆける状態でした。カブ隊の副長としてより、団の運営に参加させていただくようになってから、財務面、スタッフ面など、これは大変だなと思いました。カブ隊でこの5団を支えるんだといった気構えがご父兄の中にまで浸透していました。リーダーが苦勞していれば、手を貸そうといったことは徹底していました。今でこそ、キャリアウーマンとって珍しくありませんが、当時の女性リーダー、お母さん方それぞれ、それなりの力をもっていた方なんだなと、今も感謝しています。

先程、団委員長が生みの苦しみとおっしゃいましたが、発団以前のカブのリーダーをされていた方々のご努力を思い出していました。活動内容をお母さん方がよく把握されていました。



ボーイスカウトに入れて良かった リーダーをさせていただいて良かった

【司会】 次に、少し話題を変えて、父として母として個人的な感想をお伺いしたいのですが。ボーイスカウトに入れた動機、入れてどうだった？、リーダー、団委員などをやって子供はどうだった？などをお聞かせ下さい。

【BS 隊長 Sy】 ボーイスカウトというのは、素晴らしい団体ですよ、団委員 Nn さんに女房がすすめられたのが直接のキッカケです。団委員の協力が必要などというのもしらなかつた。入ってみて、尊敬できるというか敬意をもって接することのできる方々がいた。それが結局深みに入ってしまう（笑い）ことになるんですがね。青少年の団体はいろいろありますが、ボーイのように親が子供と一緒に、共通の基盤のもとにできる団体は他にないと思います。



親の立場から言わせていただくと、感謝しています。子供の立場からは直接本人には聞いていませんが、ローバー隊長には、「オヤジが隊長をやっていたから自分も続けた（笑い）」と言っていたそうですから、続けて良かったのだと思います。

当時は生徒と女教師の関係

【SS 隊長 Sk】 私の顔赤いでしょう（？）。当時のことを思い出して顔を赤くしていたんです（笑い）。当時のお母さんのバイタリティーにはビックリしました。僕が少年で、団委員 Yy さんなどはお母さん位の開きがありました。いわば小学生と女教師というぐらい。わからないうちハダカにされ、不動明王なんかにされてしまいました。強烈なお母さん方のバイタリティーが記憶に残っています。

今だって、いわば個性の強い方はいらっしゃるわけで、新しくデンドッドになられた方などは、私と同じように感じるのではないかと思いますよ。

【司会】 団委員 Is さん如何です？

【団委員 Is】 そうですネ、デンマザーがテキパキしていることは感じますね。近寄りにくいところがあるとすれば、それは人間的な部分ではなく、知識、経験の差がそうさせていると思います。



【司会】 バイタリティーのあるリーダーの話はこれ位にして、団委員 Ot さん、先程のお話に戻りまして如何ですか？

【団委員 Ot】 まず、うちの子は「チョロチョロ」していて、集団になじめないのはいいか、集団生活をすれば、落ち着きが出るのではないかとということと、制服のカッコよさですね。

はじめのころ、一母親としていろいろな会合に出るたび、意見を聞かれないよう、リーダ

一と目を合わせないようにしていたものです。それが、いつの間にか子供は団体生活に適応するようになり、私のほうも自分の個性を伸ばせるのではと思えるようになりました。広い心で我々親子を受け入れてくださったことを感謝しています。

おかげさまで、息子も、北海道でリーダー研修をうけ、カブ隊のリーダーとして、大学の勉強のかたわら、奉仕させていただくようになりました。

(早く、日立に帰ってリーダーをしてくれるといいですね…………カゲの声)

【司会】 それでは、分封のころに話題を変えさせていただきます。分封のための準備でもいろいろご苦労されたと思います。そのことについては、日立6団さん、7団さんなどが、10周年になる頃、同じような企画でも組めばうかがい知れると思いますので、割愛させていただいて、ここでは、スカウトが年々増加の一途を辿った背景などを話し合ってくださいと存じます。



話はそれますが、第1地区の組織拡張委員会では、スカウトの減少傾向にいかに対応するかが、大変重要なテーマになっています。5団の方々はあまり実感として、解らないと思いますが、今のうちに、我々も考えておかなければならないことだと思います。

スカウトが増えるには日常生活でのお母さん方のPR、お誘い

【団委員 Yy】 一つは、今の5団の地域ではなく広がったことです。東海までですから、地理的な条件があったと思います。もう一つは、カブのお母さん方が、積極的に日常生活の中でのPRやお誘いをしていたことだと思います。カブのお母さん方には、よく考えて頂きたいのですが、今ではなく、将来、自分の子供が組長になる時、組員がいなかったら、どうなるか。組員がいなかったら、何にもなりません。下に何人かいないと訓練になりません。カブは、組長を経験してはじめて一人前といえると思います。

【司会】 団委員 Km さんは？

【団委員 Km】 自分達のことですから、謙虚に、できるだけ控え目に考えて、内容が魅力的だったことではないですか。プログラム内容が、学校教育ではできない内容が多かったことだと思います。あーでもない、こーでもないといいながら、いろいろ検討したことが、他の団体とは違う、素晴らしい内容を作り出す結果になったんだと思います。従って、プログラム内容が隊員増加のポイントになったのではないかと思います。



【司会】 その他には、リーダーさんが魅力的だったことですか。

【団委員 Nn】 すばらしい親が、お互い協力し合って頑張るのですから、当然、子の方もそれについていかざるを得ないということになります。小さいうちは、親の考え次第だと

思います。

【司会】 さて、いよいよ後半の部に入ります。まず、CS 隊長 Yma さんにお伺いします。デンダッドをやっているうち、いつのまにか隊長にさせられてひどい団体だと思いでしょうが。

自分の子を他人は育ててくれない

【CS 隊長 Yma】 私の大学の同級生にボーイ出身の友人がおりまして、ボーイスカウトについては、かねてから関心はもっておりました。たまたま今の所に住むようになって、団委員 Yy さん達が一生懸命おやりになっているのをみていました。

先程、団委員 Yy さんがいわれましたが、小学一年の頃から、大きくなったらカブに入ろうなんて声を掛けられていて、親も素直なもんですから（笑い）、ごく自然にお世話になるようになりました。ボーイに入れるとお父さんかお母さんが何かやらなければならないというので、子供が小さいので私ということになりました。最初の頃、団委員 Sa さんにならまれながら、厳しく指導されました。ほんとにコワかった。今、一番頭に残っていることといえば、団委員 Yy さんから、自分の子供を他人は育ててくれませんよ、一人だけではなく、何人かをお互い役割分担しながら育ててゆくのが良いんですよ、といわれたのを覚えています。

それから、WB 研修などに参加させていただいて、非常に勉強になりました。ボーイスカウトは、子供の教育と同様、親の教育をする団体だと思いますね。

家に帰って、自分の子供がどうだったかとよく聞かれるんですが、どうしていたか、全然わからなかったということが多いです。お父さんがリーダーをしていることが、即ち、子供の教育になっていると思っています。

【司会】 奥さん（団委員 Ymo さん）いかがですか。隊長のご苦勞をお母さん方に。

【団委員 Ymo】 私はあまり気づかいをしない方なので。ただ自分の主人に対し、保護者的立場でした。隊長としてちゃんとできるかどうかなど。最近では、大分信用できるようになりました。副長 Wm さんをはじめ、女性リーダーの方にお世話になっていることだと思います。どちらかというと、女性リーダーの中に入ってゆきたいと思うことがあります。

（女性リーダーは、うちの奥さんよりよくいうことを聞いてくれます……………CS 隊長 Yma）—（笑い）

【司会】 CS 副長 Wm さん、お願いします。

【CS 副長 Wm】 いま子供が二人お世話になっていますが、長男を入れた動機は、とても引



込み思案で、人前で話せない、自分から手を挙げることもできない位で、私もボーイスカウトにあこがれていましたので、入れることにしました。最初の頃は集会に行くのがイヤでイヤで仕方がなかったのですが、くまの後半頃から少しずつ変わりはじめ、ボーイに上進してから、180度変わりました。何がきっかけだかわかりませんが、次男も今、いやがっていますが、そのうち、流れについてゆくようになると思っています。

入団して3年たち、4年目にデンマザーになり、昨年から副長をさせていただいています。Yma 隊長の性格をのみ込むのが大変でした。のみ込んでしまうと、自分の主人よりわかってちゃって（笑い）、スムーズに行くようになりました。先程から、昔はあー、こーといわれても信じられない話です。女性リーダー、お母さん方などに何を頼むにしても大変です。時代の流れというのでしょうか。これからカブ隊は大変だと思います。今のお母さん方は、納得さえすれば、やってくれと信じて良いと思いますが……。



【司会】 さて、長い間の沈黙ご苦労さまでした（笑い）。団委員 Sy さんお願いします。

【団委員 Sy】 私の場合、いってみれば二次募集で入ったようなもので（笑い）、同級生のお母さんから話があって、子供が少ないので、ということでした。今のように面接もなにもなかったです。そして、入ることになったら、その日の夜に団委員をやれと、いきなり言われ、それ以来ずっと続いています。子供が入ったというより、親が入ったという感じですね。

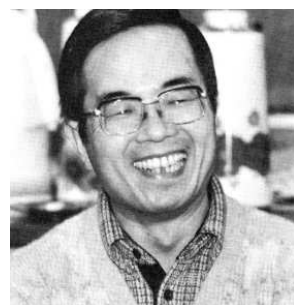
団委員会に出てもコワイ（？）人ばかりいて……（誰？）、まあ、そういうことです。

【司会】 団委員 Oh さんは？

【団委員 Oh】 親が手伝うということは、考えてもいなかったです。預けちゃう考えをしていました。知り合いに相談して入れました。皆さんにオンブしている始末です。

【司会】 お待たせしました。先程から、コワイ人の一人になっています団委員 Sa さん、弁解も含めてどうぞ。

【団委員 Sa】 私の場合、分封したあとからお世話になりました。母の会などには、恐る恐る出ました。何か一言ずつ言わなければならないのが大変でした。そのうちリーダーをお引受けするようになってからは、先輩が築いてきたことが全て記録に残っているので、大変参考になりやり易かったです。私の場合、お母さん方の援助、団委員さんの協力など、いい状態のときにリーダーをさせていただいたと思っています。



今後の課題としては、入隊者を集めるのが大変になるだろうと思います。男の子として良い体験がいろいろできたり、兄弟が少ない人は、上・下の勉強ができたり、ジャンボリーなどで遠くに行くことが出来たりするのですが、他の団体も同じようなことをやるようになってきましたので。

それから、もう一つは、お母さん方の考え方が少しずつ変わってきているということです。スカウティングとは何ぞやといったものをよく理解していただくような親の教育みたいなものが大切になるだろうと思います。



【司会】 オブザーバーでご出席いただいております H さん、今迄ずっと話を聞かれていますか。第三者的にみて。

【H】 一言でいえば、エリート集団だなーと感じました。隣は何をする人ぞといった現代社会にあって、連帯感を高め、お互い助け合い共通の場で勉強することがいかに大切か、しみじみ感じました。少年時代、青年時代の大切なことのひとつに、友人を得ることがありますが、良い機会になると思いますね。

【司会】 RS 隊長 Ky さんは、団委員とローバー隊長と二役をお引受けいただいておりますが、ローバーの諸君とキャンプなどされていかがですか。

【RS 隊長 Ky】 ローバーまで来た子は、やはり、物の見方、考え方などしっかりしています。カブから 10 年ですから、いくつものフィルターをくぐり抜けた意志の強さを感じます。次に感じたのは、ボーイ、シニア時代のキャンプはどうしても平地ですので、「登山」などには大変な関心を示しています。ただ行事は、理工科系の子は、1~2 年までですが、景色を眺める余裕もできて、喜ばれました。やはり一貫教育の良さが感じられます。

【司会】 話を次に進めさせていただきます。いよいよ 5 月には 10 周年記念式典を挙げる運びとなりました。“おかげさまで 10 周年”ということで、多くの方々から、物心にわたるご協力をいただき、感謝の気持で一杯であるのは、皆さんも同じだと思います。この 10 周年というのは、ただ単にお祭りにお祝いするというばかりでなく、一からの出直しの気持を持つことでもあると思います。今迄に団内に蓄えられた、多くのノウハウに、より一層みがきをかけ、さらに飛躍をするための決意の時でもあると思います。



発団当初の「初心忘るべからず」で、これが連綿と意識的につながるようにしなければならないと思います。それが伝統になったり、団のカラーになったりしてくるのだと思います。さて、今度のためという点から、これから日立第 5 団に子供さんを入団させようとするご父兄には、是非ともご理解いただきたいことをお話し願おうと思います。SS 隊長 Sk さんから。

【SS 隊長 Sk】 子供の進歩にいかについて行くか。リーダーからみれば、子供の自主性を尊重して活動してゆくのですが、それだけではだめで、子供達が消化しにくいところは、咀嚼して本人のものにするようにしなければと思っています。

【団委員 Km】 私も隊長の時体験しましたが、子供の成長は早いです。ローバーからカブまで、タテの連絡というか、協力体制づくりもそういう意味で大変重要になってくると思っています。

【団委員 Nn】 私は、長いことスカウト活動に関わって、しみじみ感じることは、親子ともどものスカウト活動だなーということを本当に思います。これからのお母さん方も、この点をよくご理解されると良いと思います。



【RS 隊長 Ky】 ベーデン・パウエルが考えたこのスカウト活動の火を、少なくとも日立第5団は絶やさぬようにしたいものですね。

【団委員 Sy】 今迄、いわれた他に私が感じることは、絶えず後継者づくりをくり返すことが大切のように思います。一人の人に片寄らないで、一年一年新しい工夫をこらして行くことが大切ですね。

【司会】 団の財政はいかがですか。

【副団委員長 Ys】 財政面から言えば、今の状態が丁度良いのではないのでしょうか。財政基盤の確立ということで、お金を集めすぎて、訓練などに工夫がみられず、何でも買ってしまうということになっても困るし。だからといって、あまりお金がないのも困るし。

【団委員 Th】 苦しいことは、時間が洗い流すものです。つらかったことが美化されもします。今子供さんの養育でつらいことは、成長した時にはなつかしくさえなるんだと思って頑張っておほしいですね。

一 その火を消すな 一

絶えずスカウトの勧誘に心をくばろう

【団委員 Yy】 今の人達も頑張ってくれて先輩の築かれたものを、次の世代の人達に伝えようとされています。次の世代の方々も是非とも、さらに頑張るより密度の濃い隊なり団にして行ってほしいですね。



【CS 隊長 Yma】 やはり、時代にマッチしたやり方を、いかにスカウティングのプログラムに反映するかが課題ですね。

時代がどのようになると、変えて良いところと変えてはいけない所とをよく考えることですね。

【RS 隊長 Ky】 リーダー養成が大切なことは、今更いうまでもないと思います。やらされるという被害者的な考えを持たれるのも解るのですが、自分の子供と一緒に時間を持っているんだと考えるのも必要だと思います。

【団委員 Ot】 ボーイスカウトに入れると親がとても忙しくなると言いすぎるのも、スカウトが増えないことのひとつではないでしょうか。親が大変なんだということの方に話題が集中して宣伝されているように思います。

夕べ交わした息子との会話

【団委員長】 実は、夕べ息子が帰省して参りましてセガレと晩酌をする機会がもてました。会話の中では、当然ボーイスカウトのことも出ました。そこでも感じたことですが、スカウティングの良いところは、親子の対話の材料を提供し続けてくれていることだと思いました。本当の意味で、「家族ぐるみ」なんだな—と思いましたね。親子ともどものスカウト活動とは良く言ったものです。



【BS 隊長 Sy】 10 年を振り返ってみて、皆さんのご協力には心から感謝しています。菊スカウトをたくさん作れたのも皆さん方、ご父兄のご協力あればこそです。菊スカウトも年々難しくなってきました。訓練内容をよく吟味して、これからもすばらしい菊スカウトを作りたいと思います。

【CS 副長 Wm】 カブは、子供にボーイスカウトというものを理解させると同時に、お父さんやお母さんにも解っていただくための時期だと思います。今日のような話し合いを是非、母の会などで話していただけると理解も早いと思うのですが。

【団委員 Sy】 ローバーの子供達をつれて行って話させるのも良いですね。自分の子供はうまくすると、このような青年になるんだな—というイメージがわいてくるのではないですか。

【SS 隊長 Sk】 そのうち、我々が育てたスカウト達が我々の役割を担うようになるのは、もうすぐだと思います。自分達の息子が、その子を 5 団に入れ、親から学んだことを子に伝えるようになれば、5 団も世代のサイクルができるようになりますね。



【BS 隊長 Sy】 5 団から、日本、いや世界に飛び立つ人材が輩出するのも、もうすぐで、5 団の歌は、そういう意味でピッチャリですね。

【団委員 Nn】 今の子供達は、いろいろと昔からくらべて大変なんです。制約も多いし、勉強することも多いしで、そういう環境にあってもボーイスカウトの子供達は、すくすく育ってほしいと思います。

【司会】 最近、非行だとかいじめだとか、いろいろマスコミを賑わしていますね。そうすると、必ず評論家なる人の発言が登場して参ります。もっともなことを言われます。しかし、少し落ち着いて考えてみると、耳ざわりの良い表現で全て片付けているように思

うんです。抽象論ばかりで、具体論はない、総論はあっても各論はないの類です。他人の子には評論家的発言、自分の子には過保護的カバイ方、これでは、どうしようもないと思うのですが。

【団委員 Th】 だからボーイスカウト活動に参加しては？といたいのです。もっともつと自分の子供の足元をみつめて行く親の姿勢も大切でしょうね。

【司会】 そのためのお手伝いもボーイスカウトはできる、ですか？

【全員】 そうですネ。(笑い)

【司会】 意見がまとまったところで、丁度時間になりました。長時間にわたり熱心なお話し合いをどうもありがとうございました。